



子育て世代交流施設「from ☆ Moko」(フロム・モコ) 開設から1年

子育て世代の要望を受けて

「季節を問わず、気軽に集まれる場所がほしい」

育児に奮闘するお母さんたちの願いが形になった子育て世代交流施設は2021年12月にオープンしました。

空き家を改修した施設の名称は町民公募で決定。「from☆Moko」(フロム・モコ)には、「妹背牛の子ども」の頭文字「モコ」を使い、「ここから」(フロム)大きく育ってほしいとの思いが込められています。

町民主体の施設に

町内の子育て世代なら自由に利用できるモコの運営方針は、町民主体です。

子育て中のスタッフらがモコを利用するお母さんたちの立場になって、育児のヒントになる講話やひと息つけるカフェイベントなどを開催。また、親子待望の屋外遊具を裏庭に整備した昨春には、妹背牛建設業協会が設置場所をボランティアで整地しました。

親子やスタッフとともに地域住民の支えによってモコモ成長しています。

親子のニーズを探りながら

12月の開所から翌年3月までの4か月間は、スタッフ1人を配置して、利用する親子のニーズを探る準備期間に充てました。本格的な運用が始まった22年4月からはスタッフ5人体制となり、隔週の土曜日を含めた週3〜4日の開所日を設定しました。

リラックスした様子で会話を楽しむお母さんたちのすぐそばで、元氣いっぱいなお子どもたちがハンモックネットやトンネルなどの遊具で遊んでいます。

今後の展望

「たくさんの方に利用してもらいたい」お母さんたちの憩いの場になっているモコは、そんな目標を掲げています。

子育て世代を対象にしているモコですが、より多くの方が利用できる環境を整えようと、来年度からは3世代の交流を深めるイベントや小・中学生にも活用してもらえる場所となるよう、計画を立てています。

地域に開放する中で、気軽に足を運んでもらえるモコを目指します。

☆「モコがあって良かった」～利用するお母さんたちの声～☆



安永 雅美さん（8区）

モ
コは天候を気にせず、1年を通して遊ぶことができ、8歳と3歳の息子2人を育てる私にとっても待ち望んでいた場所です。



酒田 美佳さん（1区）

コ
どもたちの喜ぶ要素がギュッと詰め込まれたような場所。想像以上の出来栄に驚き、モコができてから週一の頻度で利用しています。

設計の段階から携わることができ、私は小さなトンネルを要望しました。大人が入れないサイズのトンネルは、子どもたちだけの秘密基地のような特別な空間。色鮮やかなライトも付けてくれて、一層モコに愛着が湧きました。息子たちは、たくさんのおもちゃをトンネルの中に運んで、お店屋さんごっこをする遊びが大好き。モコで仲良くなった友だちと遊んでいると、楽しすぎて家に帰ることを嫌がるほどです。次男はハンモックネットで遊べるようになり、息子たちの成長も実感しています。

生後3カ月の次男を連れて行った時もスタッフの方が一緒にお世話を手伝ってくれるので、モコは家にこもりがちなお母さんたちもリフレッシュできる環境です。入園・入学式を前に、初めて会う保護者同士のあいさつを交わす場所でもあります。モコの和やかな雰囲気は初対面でも話しやすい環境を後押ししてくれるので、育児の相談や何気ない世間話などの会話も弾みます。今後は、親子中心の利用施設から、町を盛り上げる交流拠点になってくれたらうれしいですね。

モコ情報



Instagram



ホームページ



←親子のふれ合いを楽しめるベビーマッサージ教室
↓パスタでリースを作るユニークな工作教室も



←洋菓子と飲み物でお母さんたちもリフレッシュ！モコカフェ

